

企業も教育も「人が原点」であることを実感しました

——「教員民間企業研修」8月1～3日／

君津製鉄所・技術開発本部総合技術センター



今年で4回目の受け入れとなった「教員民間企業研修」。これは、(財)経済広報センターが「経済界と教育界のコミュニケーションを促進するため」に実施している活動の一環だ。広報センターが企画・実行にあたっており、今回は、茨城県美浦村の小中学校の先生6名を迎え、君津製鉄所、技術開発本部総合技術センターで研修を実施した。

次世代を支える子供たちの教育にたずさわる教員の皆さんに、「ものづくり」の大切さや面白さを訴え、それを支える製造現場、技術力、循環型社会の構築に向けた取り組みなどについて理解をより深めていただければ——。そのような思いで、今年も3日間の研修プログラムを作成した。

教員の皆さんからは、「どのように、世界中から原料を買い付けているのか?」「新しく開発した製品を実際のラインで生産するときは、どのような苦労や喜びがあるのか?」といった活発な質問が寄せられた。最終日、「極限までリサイクルを追求する姿に感銘した」「教育者として、人づくりとものづくりに共通点があることを痛感した」「教育する側もされる側も、ものづくりに触れることはとても大切なことだ」といった感想が寄せられた。

1 日目の研修内容

・新日鉄・製鉄所の沿革、事業内容

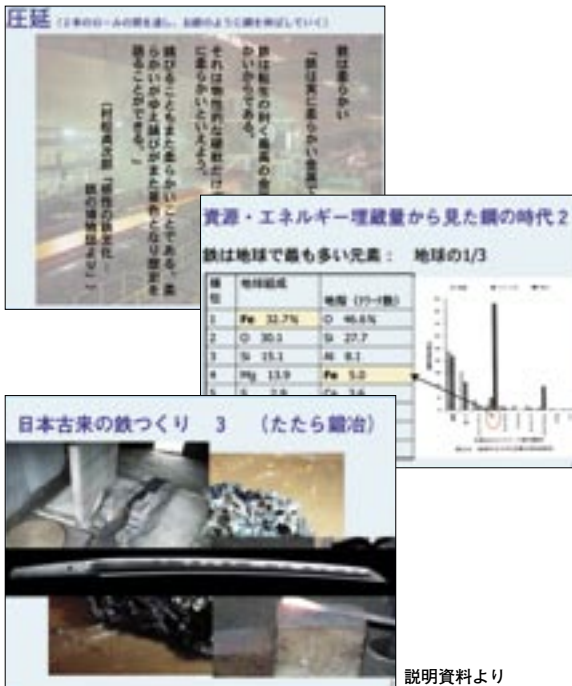
……………(講師/君津製鉄所人事グループリーダー 塚本 治)

・「鉄の作り方とその魅力」

鉄の作り方、製品の魅力をわかりやすく解説。環境への配慮や先進的な商品・取り組みなど、さまざまな視点からみた鉄の魅力と可能性について理解を深めた。

……………(講師/君津製鉄所品質管理部薄板一貫品質技術グループリーダー 田中 和明)

・工場見学



説明資料より

講師より一言

「製鉄業と教育界との共通点は『創造』です」「私たちの周りは金属で囲まれていることに気づきました」「教育にも製鉄業にも、対象を『愛する心』が必要です」「教育には、鉄のように強くかつ柔軟な心が必要です」「製鉄業も教育も『素材』を作っている点では共通しています」「鉄も教育もあって当たり前で、意識していませんがなくなれば大変なことになります」

これは私の『鉄の作り方とその魅力』の講義を受けた先生方が、ノートに書きつけてくれた感想の抜粋です。鉄づくりの話に、教育との共鳴点を見て取った先生方の感性の素晴らしさに感心させられます。講義は、遊び心・はずんだ気持ちをテーマに組み立てましたが、楽しく学んでいただく一助になれたことをうれしく思います。(田中 和明)



新日鉄の魅力と底力を実感

美浦村立大谷小学校 山本 京子先生



新日鉄という企業の取り組みを聞いて、鉄が私たちの生活と深く関わっていること、身近なところに多くの鉄製品が存在していること、貝殻・プラスチック等のリサイクル事業により地域社会に貢献していることなどを学びました。

製鉄という仕事は商品やサービスが見えにくい素材産業ですが、安くて質の良い鉄の安定供給に努め、またユーザーの要望に応えるための研究に取り組み、素晴らしい技術を開発していることが分かりました。将来の活躍を願って、その土台となるものを最善を尽くして育てるという面で、教育と通ずるものがあることを感じました。

研究の成果を生かした素材が提供されているからこそ、私たちの生活のあらゆる場面に使い勝手の良いものがどんどん生まれ、潤いのある生活が実現できているのだと思いました。

新日鉄の魅力・底力を実感することができた企業研修に参加できてよかったと思います。

鉄に対する「熱い思い入れ」と「誇り」が魅力

美浦村立大谷小学校 宮田 康雄先生



3日間という短い期間でしたが、この研修で今まで持っていた製鉄所のイメージが大きく変わりました。「煙」と「粉塵」「多くの廃棄物」等、日本の産業を支えながらも「環境汚染の最たるもの」といったイメージを持っておりました。

しかしながら、「環境に優しい鉄づくり」「地域・社会への貢献」を目指し、製造過程で生じる副生ガスや副産物のリサイクルはもとより、他産業で発生する「プラスチック」や「貝殻」のリサイクルにまで取り組んでいることを知り、深く感銘を受けました。

また、「より質の高い鉄づくり」「社会ニーズに合った鉄づくり」を追求し、鉄に対する「熱い思い入れ」と、鉄づくりに「誇り」を持って日々研究開発に努めている社員の姿に、人間的な魅力さえ感じました。

この研修で得たことを子供たちに伝えながら、今後の教育活動に役立てていきたいと思っています。

教員の方々から

未来を見据えた「ものづくり」と「人づくり」

美浦村立安中小学校 横田 博江先生



「新日本製鉄」、現在の日本経済の礎を築いてきた鉄鋼業をリードするこの大企業が抱える苦悩や未来を見据えた“ものづくり”の姿勢に、大いに感銘を受けた3日間でした。

資源が乏しく、原料を輸入に頼っての鉄づくり。高い品質の物を作りながらも、二酸化炭素の排出量を極限まで減らす取り組みに、「産業の発展と社会の繁栄に貢献する」を掲げるプロとしての気概を感じました。

他にも鉄やプラスチックリサイクル、貝殻の再利用、一般家庭への電力供給等々、循環型社会に向けた施策の数々は、学校に戻って子供たちにぜひとも話して聞かせたいと思う内容でした。そうした企業の陰の努力を知ること、環境教育を進める上で大切であると思います。

また、研修の中で「ものづくりは人づくり」、「答えは現場にある」という言葉がありました。教育現場もまさに同じであると痛感しました。現状を真摯に受け止め、努力し続けることの大切さを改めて学んだ研修でした。

「創造」する仕事に誇りを持って取り組みたい

美浦村立美浦中学校 木村 麻美先生



「創造」という言葉が昔から好きです。ものを作り出す、生み出す。そのために人は生まれてきたのだと思っています。まさに製鉄所では色々なものが生み出されてきました。「鉄」自体もそうだし、表面加工の技術や、広報活動まで一つの「製鉄」というその会社を作るさまざまな要因が創造されているのを感じることができました。

そこには必ず関わる人のエネルギー、熱意がありました。仕事に対するプロ意識がありました。会社・製品に対する誇り、それがさまざまなものを生み出していたのです。

私たち教員も「人間」の人格の一端を創造する仕事をしています。そのことを自覚して、熱意を持って、誇りを持って仕事に取り組みたいと感じました。そして何よりも、私も何かのプロ、教育のプロでなくてはならないなど、帯を結び直してこの先の教員人生を歩もうと思います。

2日目の研修内容

・「日本鉄鋼業の現状と展望」

日本のものづくりの現状を、鉄鋼業の立場から紹介。世界の鉄鋼需要の動きや、中国を中心とした需要拡大などのマーケット動向を概観し、日本鉄鋼業の現状を探る。

……………(講師/君津製鉄所総務グループマネジャー 水野 達哉)

・「くらしを快適にする鋼板」

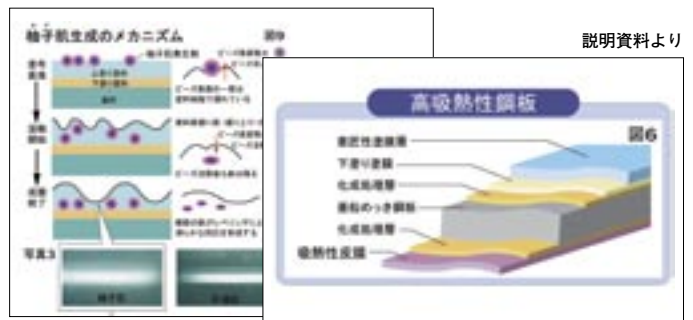
鉄鋼製品が持つ、低温靱性、高温強度、耐食性、耐熱性、耐摩耗性、衝撃吸収能、溶接性、加工性、切断性、といった使用性能に加え、人間の五感や感性に作用する機能を有する鋼板が開発され、実用化されている。意匠性や耐汚染性(視覚)、静粛性・制振性(聴覚)、吸熱性・放熱性、環境対応性など、新しい機能を持つ表面処理鋼板の具体例を紹介。

……………(講師/技術開発本部鉄鋼研究所表面処理研究部長 宮坂 明博)

・「新日鉄の広報活動」

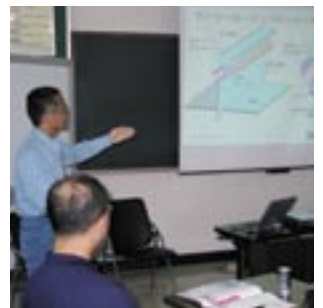
新日鉄が社会に開かれた企業であるためにどう取り組んでいるかを、企業の社会的責任(CSR)の観点から説明。学習絵本『新日鉄の新・モノ語り』シリーズや、「ニッポン・スチール・マンスリー」掲載の「モノづくりの原点」、「鉄と鉄鋼がわかる本」など情報発信ツールの狙いや反響、今後の方向性などを紹介。

……………(講師/広報センター)



講師より一言

「ものづくり」は「人づくり」。ものづくりに関心を持たれた先生方を通して、子供たちがものづくりや鉄の面白さに、もっともっと興味を持ってくれれば良いと思います。(宮坂 明博)



3日目の研修内容

・「最先端の研究開発」

新日鉄の競争力の源泉、技術開発本部総合技術センター/REの見学

……………(講師/技術開発本部 人事グループマネジャー 佐伯 恵一)

・東日本資源リサイクル(株) 工場見学

……………(講師/代表取締役社長 森 俊雄)



新日鉄を身近に感じた3日間

美浦村立美浦中学校 鈴木 啓司先生



今回の「新日鉄君津製鉄所」での体験は、生活の中に溢れているはずの鉄に、改めて目を向かせてもらう機会になりました。

新日鉄は企業としては厳しい時代が続き、大変な時期があったと言っていました。現在は鉄の需要も伸びてきて良かったとのこと。しかし、今あるのはその厳しい時にも日々絶え間ない研究と努力があつてのことだと思いました。なぜなら製造業としては常に第一線を走り続けながら常に新しいことに目を向け、環境や地域のことを考え、良き市民企業であることや人を育て、人を活かす開かれた企業であるからです。

「ものづくり」は「人づくり」という話を伺いました。初めはピンときませんでしたが、研修を進めていくにつれて、企業の考えやこれから何をしたいこうとしているのか等、知れば知るほどその言葉の重さを感じました。

たった3日間の短い期間ではありましたが、新日鉄をこんなに身近に感じられたのは、関係者の皆様のお陰です。ありがとうございました。

「仕事に対する姿勢」を再認識

美浦村立木原小学校 生木谷 幸雄先生



今回の研修で感じたことの一つに、日本の企業の優秀さがあります。新日鉄君津製鉄所では工程の途中でできる副産物をほぼ100%に近い状態でリサイクルし、製鉄や製鉄以外の産業で活用し、環境にも影響せず製品をつくることができます。環境に対して優しい工場を造りながら優秀な製品をつくりだすことを知り、日本の産業が世界に誇れる存在であることを実感しました。

仕事をするということはただ単に利益を得ることだけではなく、社会に貢献することに大きな価値があることを認識しなければならぬと感じました。

また、製鉄に直接関する仕事から広報に関する仕事まで、新日鉄で働く皆さんの自分の専門分野に打ち込んでいるお話を多く聞くことを通して、自分が活躍できる仕事を持っていることの幸せを感じました。私自身のことを振り返り、教員としての仕事をしていることの幸せを実感し、仕事に対する姿勢を反省する機会を持つことができました。



説明資料より

講師より一言

今回短い時間ではありましたが、将来を担う人材の育成に最前線で取り組んでいる教員の方々と対話する機会を得ることができ、貴重な経験となりました。鉄鋼業を取り巻く環境や当社・君津製鉄所における取り組みをいくつかご紹介しましたが、先生方との意見交換を通じ、「環境変化への的確な対応」や「地元など周囲との調和を保つ」ことは、企業、学校と現場は違えども、共通の課題だと改めて認識しました。また、今回の研修を通じ、社外で発生するプラスチックや貝殻のリサイクルをはじめ、一見鉄とは関係ないように見えることも鉄づくりに活かしていることなど、多面的な取り組みを少しでもご理解頂ければ幸いです。(水野 達哉)



研修を終えて／広報センターより

今年も例年通り教員の皆さんの企業活動への関心はとて高く、企業のノウハウを学校教育の現場に活かそうという強い意気込みが感じられました。また、身近にありながらもあまり知られていない鉄鋼素材や環境保全への取り組みについて、理解を深めていただくことができました。当社としても、より開かれた企業を目指し、社会に向けた理解活動を継続的に展開していくことの重要性を改めて認識しました。そのためにも、子供たちを教育する立場の方々への理解活動は、大切な社会貢献活動の一つであり、当社の社会的責任でもあります。今後とも、こうした活動を継続していきます。